



精子・卵子・胚研究の現状

慶應義塾大学医学部産婦人科学教室
久慈直昭



背景

ヒト精子・卵子・受精卵（胚）を用いた研究は、体外受精法によりヒト**個体発生が可能**となったため、一定の規制が必要となった。

一方2004年7月、総合科学技術会議は「生殖補助医療研究」に限定して、ヒト胚の研究目的での新たな作成と利用を認める答申。

しかし海外には、**実験目的での新たな胚作成を認めない国も存在**。

現在わが国における指針は日本産科婦人科学会会告と、それに基づく登録・報告制度のみ。ここでは今後のわが国の**新しい研究の枠組み**を構築するための基礎資料として、下記三点を考察した。

- 1) わが国で行われた精子・卵子・胚に関する研究の調査報告
- 2) 生殖補助医療における研究の必要性と国内外における動向
- 3) 新たな受精をおこしうる精子・卵子は増えるのか？